



## 四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



### アンズ

学名	: <i>Prunus armeniaca</i>
生薬名	: 杏仁(きょうにん)
薬用部位	: 種子
薬効	: 利尿、鎮咳、去痰



アンズは3-4月に薄ピンクの花を咲かせ、6月頃に橙黄色に果実が熟します。



**杏** 「杏」の字は、「木」の下につく「〇(丸い)」実という意味や、「木」と「口」で、おいしい実のなる木を表しています。特有の芳香と甘酸味があり、ドライフルーツ、ジャム、シロップ漬け、酒(アンズ酒、杏露酒)などに加工されます。栄養価が高く、βカロテン、カリウム、鉄分、食物繊維、リンゴ酸、クエン酸が多く含まれています。

栽培の歴史は古く、BC2000年頃から中国で始まり、日本へは平安初期の薬物書『本草和名』に「唐桃」という名で記載されたのが最初ですが、それよりも古くから栽植されており、当初は薬用とされ、次第に果物として利用されるようになりました。

生薬「杏仁」は、初夏に成熟した果実を収穫し、果肉を取って真ん中の堅い核を割り、内部の種子を取り出して乾燥させたものです。青酸配糖体のアミグダリンを含有し、利尿、鎮咳、去痰薬として、麻杏甘石湯(咳、喘息)や麻黄湯(感冒)に配合されています。

杏仁から得られる油は敏感肌、乾燥肌に適し、軟膏基剤、化粧品、石鹸、整髪料などに用います。杏仁油を除いたものを蒸留して得られる杏仁水は咳止め・うがい薬などに用います。味の苦い苦杏仁は薬用にされ、食用とされる甘い甜杏仁は杏仁豆腐など菓子の材料になります。

中国の書物『神仙伝』に杏にまつわる故事が記されています。三国時代、董奉(とうほう)という腕のよい医師がいました。彼は患者を治しても貧しい人からは決して治療代を受け取らず、代わりにアンズの木を植えさせました。医術に精通した董奉の評判は広まり、いつしか大きな杏林になるほどたくさんの木が植えられました。そして彼はその木々になるアンズの実と引き換えに穀物を得て、貧しい人々に分け与えたそうです。そんな董奉の徳を称え、良医のことを「杏林」と呼ぶようになったそうです。

